

DevEx とは

- Platform Engineering/SREの導入で目指す  
開発者体験の未来 -

# DevEx(Developer Experience)とは

- **DevEx (Developer Experience) とは**

- 開発者の生産性と満足度を向上させることを目的とした概念や、その取り組みのこと
- エンジニアの課題を解決するためのツールや、開発プロセスの進化とともに発展している
- 近年、DevExが企業におけるイノベーションと効率性の向上を目指す動きとして重視されている

- **DevExがトレンドとなっている背景**

- ソフトウェア開発の多様さや複雑性、エンジニアの労働市場における需要の高まりが関係している
- エンジニアが快適に作業できる環境や、スキルアップにつながる働き方や教育機会を提供することが優秀な人材の確保と定着に大きく寄与する
- 開発プロセスや運用の自動化によって、繰り返し発生するタスクを減らし、エンジニアがより重要な作業に集中することでビジネスのイノベーションに繋がる
- コミュニケーションツールの改善は、チーム間のコミュニケーション促進やプロジェクトの円滑な進行に効果的



**DevExの向上は、エンジニア個人の満足度の向上だけでなく、企業全体の競争力強化にも繋がる**

## ● システム開発時

- DevExは、エンジニアが使いやすいツールやフレームワークを利用することによって高まる例が多い
- 先進的なIDEやバージョン管理ツールの利用、静的解析などを含むCI/CD自動化によって、コーディングの効率が向上し、アプリケーションの品質向上に繋がる
- クラウドインフラの構築や構成管理も重要なポイントで、繰り返しの手作業や煩雑な操作手順をなくすことで、作業ミスが減るなどの効果が期待できる
- 開発ツールやキットを整備することは、Platform Engineering（プラットフォームエンジニアリング）とも呼ばれ注目されている

## ● システム運用時

- SREなどによるCI/CDパイプライン整備により、自動テストやデプロイができるようになると、リリースプロセスが迅速化され、運用効率が向上する
- 高度なモニタリングツールとロギングシステムを整備することで、運用中のアプリケーションのパフォーマンスをリアルタイムで把握し、障害にも迅速に対処できる
- ダッシュボードで一元的にシステム状況の可視化すると、運用負荷を減らしつつ、システムの信頼性を高めることができる

- **組織文化や開発プロセス全体**

- DevExの改善は、開発チーム間のコミュニケーションやコラボレーションにも大きく関係する
- 共有ツールを使い、コミュニケーションを円滑にとることができるようになれば、チーム内外のメンバーが知識を共有し、協力して問題を解決できるようになる
- エンジニアが新しい技術を学び、キャリアを発展させる機会を作ることもDevEx向上のポイント
- エンジニアのスキルアップや自律的なキャリア形成が進む環境があることは、組織全体の雰囲気活性化し、イノベーションの促進に繋がっていく



このように、DevExの向上によってシステム開発や運用がより効率的で生産的になるだけでなく、個々のスキルアップや組織文化の変革が進むことで、ビジネス変革や新たな挑戦への足がかりとなる

# DevEx向上へのアプローチ

- **プラットフォームエンジニアリングとSRE**

- プラットフォームエンジニアリングは、開発者環境を整備し、開発プロセス効率化を目指す取り組み
  - DevExの向上には、開発生産性を上げるためのツールや開発プラットフォームの整備が不可欠
  - コーディングを円滑に進めるための開発環境や、データ可視化ダッシュボード、CI/CD自動化など、先進的で便利なツールを組み合わせ活用することが重要
- SREのような高度な自動化知識を持った専門組織を導入することで、プラットフォームエンジニアリングや、先進的なツールや仕組みの導入が進めやすくなる

- **クラウドネイティブ技術の利用**

- コンテナ、マイクロサービスアーキテクチャ、サーバレスなどを導入することで、アプリケーションのスケラビリティと可用性を高め、開発者がより柔軟にシステムを構築できる
- グローバルで先進的な技術知識を獲得することにより、エンジニアのキャリア形成や市場価値向上にも繋がるため、優秀なエンジニアの採用・定着の可能性も高まる

- **段階的な導入**

- まずは小規模なプロジェクトや特定のサービスから始め、徐々に範囲を拡大していくことが重要
- 段階的なアプローチにより、組織が新しい技術やプラクティスに適応し、リスクを最小限に抑えながらも、DevEx向上への取り組みを推進していくことができる

- **組織文化の変革**

- DevExの成功は、技術的な側面だけでなく、組織文化の変革にも依存する
- エンジニアが意見を自由に表明し、新しいアイデアを試すことを奨励する文化を醸成することで、継続的な改善とイノベーションを促進することができる



DevExへの取り組みは、ツールや技術の導入ではなく、「エンジニアの働き方や組織の文化を変革するプロセス」  
段階的な導入と組織文化の変革を通じて、DevExの導入を成功させ、開発者の生産性と満足度の向上を目指す

# DevExに関連する代表的な技術・ツール

- マイクロサービス・クラウドネイティブ関連の技術

- **Docker**を利用することで、アプリケーションをコンテナとしてパッケージ化し、環境間で一貫性を保ちながら配布・実行できる
- **Kubernetes**はコンテナを管理・オーケストレーションするための基盤であり、大規模なアプリケーションのデプロイメント、スケーリング、運用を自動化できる
- **Istio**は、マイクロサービス間の多様な通信をセキュアかつ効率的に管理するためのサービスメッシュを提供する

- Observabilityツール (O11y)

- **Grafana**や**Prometheus**は、主にインフラメトリクス収集と可視化を行うOSSのモニタリングツールでシステムのパフォーマンスを監視し、一元的に可視化できる
- **New Relic**や**Datadog**は、All in One型SaaSで、アプリケーションのパフォーマンスモニタリング (APM) 機能を提供し、システム全体の問題点を特定しやすくする

- IDEおよびバージョン管理ツール

- Visual Studio CodeやIntelliJ IDEAなど、開発者の生産性を大きく向上させる統合開発環境（IDE）
- Google CloudのCloud Workstations など、フルマネージドな開発環境はセキュリティやスケーリング管理しやすく、Gemini for Google Cloud（旧 Duet AI）など強力なコードアシスト機能も統合できる
- Gitなどのバージョン管理システムや、GitLabやGitHubなどCI/CDの自動化もできるコード管理ツール

- コミュニケーションツール

- Confluenceなどドキュメント管理と知識共有のためのツール
- JIRAなどプロジェクトのタスクやスケジュール管理のプラットフォーム
- SlackやMicrosoft Teamsのような即時コミュニケーションを促進するメッセージングツール

- 生成AIの活用

- GitHub CopilotやGoogle CloudのDuet AIなどソースコード生成のアシスト
- Microsoft 365 Copilotのような資料作成支援を行うAI関連サービス
- ChatGPT のAPIを利用して独自のAI活用も増加している

# DevEx向上の取り組み事例

- **Works Human Intelligence**

- 技術的・組織的負債を返済しDevExを向上させるための取り組みを行なっている
- 組織や文化の意識改革を進めると同時に、開発者と協力して課題の洗い出しを行い、GitHubなどのツール導入やCI/CDの改善などを実施するなど、エンジニアの開発環境の改善を実施
- 参考：<https://speakerdeck.com/whisaiyo/developers-summit-2023-02>

- **リンクアンドモチベーション**

- GPTを活用して開発者体験を向上させる取り組みを行なっている
- GitHub Copilotを導入し、さらにGPTについて組織全体で戦略的に学習するなど、AIツールを活用するための組織文化の改革にも力を入れている
- 参考：<https://speakerdeck.com/lmi/developer-experience-day-2023-link-and-motivation>

- **NewsPicks**

- SREチームによるCI/CDの改善から開始したDevExの向上施策が、多くのチームに広がり、自発的に開発者体験の改善が進む組織文化が醸成できたと報告されている
- 参考  
：<https://speakerdeck.com/edvakf/zui-gao-nokai-fa-zhe-ti-yan-nozhui-qi-gakai-fa-sheng-chan-xing-wogai-shan-sisok-keruwen-hua-wosheng-michu-sitahua>

DevEx支援のご相談がございましたら  
次のお問い合わせ先にご連絡ください。

3>SHAKE

お問い合わせ先：

株式会社スリーシェイク

住所： 東京都新宿区大京町22-1

URL: <https://sreake.com/contact/>

Email: [business@3-shake.com](mailto:business@3-shake.com)

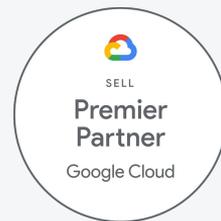
# 会社概要

**会社名** 株式会社スリーシェイク  
**設立日** 2015/1/15  
**代表者** 代表取締役社長 吉田 拓真  
**所在地** 東京都新宿区大京町22-1  
グランファースト新宿御苑3F・4F

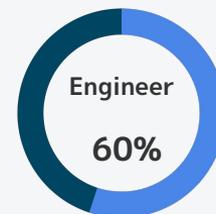
**Mission:** インフラをシンプルにして  
イノベーションが起きやすい世界を作る

**Vision:** 労苦 (Toil) を無くすサービスを適正な価格で提供し続ける

**Value:** エンジニアリングレイヤーに横たわる人、手法、ツールが  
サイロ化されて労苦が発生しているプロセスをシンプルにし  
サービス機能開発に集中できるソリューション  
(SRE、DevSecOps、DataOps、HROps) を提供する



Google Cloud、AWSの両方に強みを持ち  
SREを軸にご支援



SRE/DevOps



- ・ SRE総合支援からセキュリティ対策を全方位支援
- ・ Geminiを用いた生成AIの活用支援

BizOps



- ・ クラウド型ETL/データパイプラインSaaSの決定版
- ・ あらゆるSaaSをノーコードで連携

3>SHAKE

SecOps



- ・ ワンストップで脆弱性診断を行うセキュリティ対策SaaS

HR



- ・ ハイスキルフリーランスエンジニア紹介エージェント



IT内製化 / 高度化

クラウドネイティブ化

モダナイゼーション

ITアジリティ向上

# Thank You